A-3

e ポートフォリオによる自主学習のサポートの有効性とその課題

Introducing E-portfolios to Support Students' Self-directed Learning

○秋庭大悟[1]，谷岡朗[1]，鈴木孝[1]，ジョゼフ・ファラウト[1]，中村文紀[1]，
ジョナサン・ハリソン[1]，乙黒麻記子[1]，内堀奈保子[1]
*Daigo Akiba[1], Akira Tanioka[1], Takashi Suzuki[1], Joseph Falout[1], Fuminori Nakamura[1]
Jonathan Harrison[1], Makiko Otoguro[1], Naoko Uchibori[1]

Abstract: In this study we introduced e-portfolios in a short intensive TOEIC preparation course to allow students to record their studies at home, which makes it possible for teachers to monitor and support students' study during a self-directed learning period. We concluded that introducing e-portfolios has a positive effect on supporting students' self-directed learning, although there are some problems to overcome when it is put into practice in ordinary language classes.

1．はじめに

本稿では 2016 年度夏に一般教育教室 e-learning 研究グループにより実施された「TOEIC 短期対策講座」の成果報告と検証を行う．同研究グループは 2004 年度より長期休暇を利用した資格試験対策の講座を通じて e-learning の効果的な利用方法を継続して研究してきた．過去の研究では，対面授業に加え e-learning 教材を用いることが基礎学力の向上に有効であることが示されたが [1]，自主学習期間における学習のモニタリングとサポートが課題となっていた．そのための 1 つの手段として電子メールによる学習サポートの導入などを行ってきたが [2]，本稿では e ポートフォリオを導入することで受講者の学習をより効果的にサポートすることが可能であることを示すとともに，語学指導における e ポートフォリオの有効性を検証する．

2．方法

TOEIC はリスニングとリーディングの両セクションの計7パートで構成されており，合計スコアが同じであっても，各受験者の苦手とするパートは様々である．一方，TOEIC 対策を目的とした授業を行う際，各受講者の苦手とする箇所が異なるために，個々の受講者の弱点に対応した講義を行うのは容易ではなく，クラスのサイズが大きくなるほど全体に向けた一般的な指導を行わざるを得ない．本講座では TOEIC に向けた自主学習の方法の確立に焦点をあて，受講者が自らの弱点を分析し，それを克服するための学習計画を自分自身で立てることで講座の終了後も学習を継続できるようにすることを目標とした．講座は Table 1 に示された日程で開催された．2 回の TOEIC IP テストの間には約 1 ヶ月の自主学習期間があり，受講者にはその間，2013 年度より学科・教室横断で導入され，Moodle と併用して利活用されているオープンソースの e ポートフォリオシステム Mahara を用いて学習記録をつけることで自主学習が進められた．受講者は学内掲示で募集し，大学院生 3 名，学部生 9 名，短大生 2 名の計 14 名が集まり，最終的に 7 名が 2 度の TOEIC IP を受験した．

日程	内容
8 月 8 日	第 1 回 TOEIC IP
8 月 9 日	第 1 回 TOEIC 模試 Mahara 説明
8 月 10 日	パート別学習方法の指導 受講生個人面談
8 月 11 日～29 日	自主学習期間 ①
8 月 30 日	第 2 回 TOEIC 模試 学習方法の指導
8 月 31 日～9 月 8 日	自主学習期間 ②
9 月 9 日	第 2 回 TOEIC IP

Table 1: 2016 年 TOEIC 短期対策講座日程

Mahara ではブログ形式の「ノート」と呼ばれる機能があり，今回は各受講生に「長期目標」「短期目標」「日々の学習記録」の 3 つのノートを作成してもらい，複数のノートを e ポートフォリオとして同一ページに並べて表示させる形で学習の記録をつけてもらった．ノートには各記事毎に閲覧者がコメントをつけることができ，教員は定期的に各受講者のノートを閲覧し，記録内容に関するコメントを与えた．また，グループ機能を用いて掲示板による受講者同士の意見交換を可能にするとともに，ファイル共有機能を通して学習の補助資料を適宜ダウンロードできるようにした．

3．結果と考察

本講座において，2 度の TOEIC IP を受験した 7 名全員のスコアが向上し，全体平均では学習の前後で 328.86 点から

1: 日大理工・教員・一般

436.43 点へと向上した（53.57 点増）．7 名のうち自主学習期間中に学習記録を 5 回以上つけた受講者は 3 名であり，平均で 425.00 点から 511.67 点に上昇した（86.67 点増）．今回の講座では特定のパートに焦点をあてた指導は行わず，学習内容も全て学生自身が自己分析の結果をもとに自ら決定する形を取ったが，その結果，2 回のテストにおける受講生全体の項目別の正答率の平均を比べると，9 項目中 7 項目で上昇が見られ，第 1 回目のテストで最も正答率の低かった項目（R1）の伸び率が最も高くなった（Table 2）．こうした点より，当該受講者に関しては，自らの弱点を正しく分析し，それを克服するための適切な学習方法を身につけるという本講座の目標は達成できたと思われる．

e ポートフォーリオによる学習記録に関しては，参加者 14 名のうち自主学習期間に学習記録をつけたのは 10 名であり，そのうち 5 回以上学習記録を残した受講者は 6 名であった．以下，受講者を対象に行ったアンケートの結果も踏まえ，e ポートフォリオを語学科目の授業に導入する際の課題を考察する．

	L1	L2	L3	L4	R1	R2	R3	R4	R5
A. 第1回TOEIC IP	47.29	46.43	73.43	37.43	23.57	35.14	31.57	46.57	53.14
B. 第2回TOEIC IP	57.86	60.00	69.86	46.00	47.00	41.14	33.86	39.86	55.57
増減(B−A)	10.57	16.43	−3.14	8.57	22.00	6.00	0.86	−5.86	2.43

Table 2:　2 回の TOEIC IP の項目別正答率の平均（単位は%）

語学を週に一度の授業のみで身に着けることは難しく，継続的な自主学習が必要となるため，学生が日々の学習を記録し，それを教員がモニタリングできるという点で e ポートフォリオの活用は有用であると考えられるが，通常授業に導入する際，一番の問題となるのはクラスの規模が大きくなるほど，学習記録の確認による教員への負担が増えることである．今回の講座では学習記録の中に記された受講者の質問に対しコメントを通して教員が回答を行ったり，学習記録の内容から今後の学習に関する提案を行ったりしたが，数百人単位の学生が更新する学習記録を一人の教員が毎日確認しコメントを与えることは容易ではなく，今回の方法を通常の授業で実践しようとすれば，TA の活用や，クラス数の限定や少人数クラスでの実施など，ある程度限定的な形で行う必要があると思われる．

また，学習記録を継続させるための動機づけも大きな課題となる．受講者を対象に行ったアンケートでは，学習記録をつけることで過去の学習を振り返ることができたことや，教員から学習内容に関してコメントをもらえたことを評価する受講者が複数いた一方で，実際に学習記録を 5 回以上つけた受講者は 6 名であり，そのうち 5 週間の自主学習期間の 4 週目以降にも学習記録をつけた受講者は 3 名にとどまった．学習記録の継続を動機づける手段の 1 つとしてグループの掲示板を導入し受講者同士の交流を促したが，今回の講座ではもともと面識のない受講者が集まったこともあり，ほとんどの受講者が掲示板の使用に興味は示したが実際の活用は躊躇してしまったと回答し，掲示板への投稿を行った受講者は一人もいなかった．しかしこの点においては通常の授業内で使用する場合には既知の学生同士が参加することになるため，掲示板の使用は有効な手段となる可能性が高い．また，学習記録を継続できなかった学生からは，入力画面にたどり着くまでのシステム面の煩雑さも指摘されており，学習記録を継続することによるメリットを十分に理解させるとともに，継続への動機づけとなるグループ機能などの充実や，システム面の工夫などの課題が残された．

４．結論

本講座における取り組みを通して，継続的な学習を要する語学科目を指導するにあたり，e ポートフォリオが学生の自主学習をサポートする有効な手段となり得ることが示された．アンケートに回答した全ての受講者が e ポートフォリオを学習に取り入れることに対し「良いと思う」と回答しており，その有効性を妥当と捉えていることが分かる．今回の講座は受講者の規模が小さかったため，今後も継続的に検証を行う必要があり，それに加え，大規模な人数で行われる授業での導入や，学習記録の継続に関する動機づけなどの課題についても引き続き検討していく必要がある．

５．参考文献

[1] 谷岡朗，中川浩，周一川，郭海燕，鈴木孝，多惠基継，ジョセフ・ファラウト，中村文紀，ルート・ヴァンバーレン，ジョナサン・ハリソン，福田敦，石坂哲宏：「TOEIC Bridge との関連から見た英語 e-learning 学習の活用について」，第 53 回日本大学理工学部学術講演会（CD-ROM），63-64，2009.

[2] 内堀奈保子，谷岡朗，鈴木孝，多惠基継，ジョセフ・ファラウト，ルート・ヴァンバーレン，中村文紀，ジョナサン・ハリソン，乙黒麻記子：「電子メールサポートを利用した e-learning の活用：2012 年度「TOEIC 短期攻略講座」の成果から」，第 58 回日本大学理工学部学術講演会（CD-ROM），7-8，2014.